

# 岡山県感染症週報 2014 年 第 12 週 (3 月 17 日～ 3 月 23 日)

◎岡山県は『インフルエンザ注意報』発令中です。

## ◆2014 年 第 12 週 (3/17～3/23) の感染症発生動向 (届出数)

### ■全数把握感染症の発生状況

- 第 11 週 2 類感染症 結核 1 名 (80 代 男)  
 5 類感染症 麻しん 1 名 (10 代 女)
- 第 12 週 2 類感染症 結核 2 名 (70 代 男 1 名、80 代 女 1 名)  
 3 類感染症 腸管出血性大腸菌感染症 1 名 (O157 : 60 代 女)  
 5 類感染症 バンコマイシン耐性腸球菌感染症 1 名 (80 代 女)

### ■定点把握感染症発生状況

- インフルエンザは、県全体で 1197 名 (定点あたり 17.73 → 14.25 人) の報告があり、前週より減少しました。  
 ○感染性胃腸炎は、県全体で 542 名 (定点あたり 9.15 → 10.04 人) の報告があり、横ばいで推移しています。

### 【第 13 週 速報】

- 岡山市の小学校 1 校でインフルエンザとみられる学級閉鎖がありました (3 月 24 日)。

1. **インフルエンザ**は、県全体で 1197 名 (定点あたり 17.73 → 14.25 人) の報告があり、前週より減少しました。県全体の報告数はピークとなった第 5 週と比べると減少したものの、依然として多くの患者が報告されており、岡山県では「インフルエンザ注意報」を発令中です (1 月 16 日発令)。地域別では、倉敷市 (22.88 人)、備中地域 (19.67 人)、真庭地域 (15.67 人) の順で定点あたり報告数が多くなっています。真庭地域を除く全ての地域で報告数が減少しましたが、真庭地域では第 10 週以降 3 週連続で増加しています。インフルエンザによる入院患者は 2 名の報告がありました。インフルエンザとみられる学校等の臨時休業が 29 施設でありました。県内の発生状況など詳しくは、[「インフルエンザ情報」](#)をご覧ください。  
 全国の第 11 週の発生状況を見ると、定点あたり 22.79 人であり、前週とほぼ同数でした。
2. **感染性胃腸炎**は、県全体で 542 名 (定点あたり 9.15 → 10.04 人) の報告がありました。第 8 週以降はわずかに増加が続き、今週は定点あたり 10 人を超えました。ひきつづき手洗いの徹底や下痢便・嘔吐物の適切な処理など、感染予防と拡大防止に努めてください。県内の発生状況など詳しくは [「感染性胃腸炎情報」](#) をご覧ください。
3. **麻しん**は第 11 週に 1 名の報告があり、第 10 週から 2 週連続の発生となりました。県内の 2014 年の累計は 4 名となっています。県内の発生状況等について、詳しくは岡山県感染症情報センターホームページ「[麻しんについて](#)」をご覧ください。  
 全国の発生状況を見ると、今年第 1～11 週までの累積報告数は 180 名であり、前年同時期 (60 名) の 3 倍となっています。2014 年に全国で報告された麻しんウイルスは B3 型が最も多く、その多くは海外からの輸入感染が疑われています。今般、特にフィリピンで麻しんが疑われる患者が増加しており、フィリピンでの感染が疑われる日本国内の届出が確認されています。海外への渡航者は、自分のワクチン接種歴を確認の上、必要なワクチン接種を行い、ウイルスを日本へ持ち込まないよう心がけましょう。
  - ・ [麻しんウイルス分離・検出速報](#) (国立感染症研究所)
  - ・ [麻しん患者の増加について](#) (平成 26 年 2 月 7 日付 厚生労働省事務連絡)
4. **腸管出血性大腸菌感染症**は、第 12 週に 1 名の報告があり、2014 年はこれまでに 3 名が報告されています。患者発生が多いのは夏から秋ですが、この時期以外でも患者の発生がありますので、食肉は中心部まで火を通すなど、通常の食中毒対策を励行し、感染予防に努めましょう。県内の発生状況等について、詳しくは岡山県感染症情報センターホームページ「[腸管出血性大腸菌感染症について](#)」をご覧ください。

## ☆小学校入学前に麻しん・風しんの予防接種を！

麻しん・風しんの定期予防接種 (第 2 期) の接種期間は、小学校入学前の 1 年間 (4 月 1 日～3 月 31 日) となっています。

4 月から小学校に入学される方で、まだ接種を済ませていない方は、忘れずに接種しましょう。

【お知らせ】

- 岡山県内に関する「重症熱性血小板減少症候群（SFTS）調査中間とりまとめ」を、感染症情報センターホームページに掲載しました。
  - ・「重症熱性血小板減少症候群（SFTS）調査中間とりまとめ」を掲載しました。
- 春休みに海外へ旅行される方に向けた感染症情報が、厚生労働省検疫所のホームページからご覧になれます。
  - ・春休みに海外へ渡航される皆さまへ！（厚生労働省検疫所ホームページ）

流行の推移と発生状況

疾病名	推移	発生状況	疾病名	推移	発生状況
インフルエンザ		★★★★	RSウイルス感染症		★
咽頭結膜熱		★★★★	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		★
感染性胃腸炎		★★★	水痘		★
手足口病			伝染性紅斑		
突発性発疹		★★	百日咳		
ヘルパンギーナ		★	流行性耳下腺炎		★
急性出血性結膜炎		★	流行性角結膜炎		★
細菌性髄膜炎			無菌性髄膜炎		
マイコプラズマ肺炎			クラミジア肺炎		★
感染性胃腸炎(ロタウイルス)					

【記号の説明】 前週からの推移: : 2 倍以上の減少 : 1.1~2 倍未満の減少 : 1.1 未満の増減

: 1.1~2 倍未満の増加 : 2 倍以上の増加

発生状況: 空白:発生なし ★: 僅か ★★:少し ★★★:やや多い ★★★★:多い ★★★★★:非常に多い  
今週の流行状況を過去5年間と比較し、5段階で表示しています。

感染性胃腸炎(ロタウイルス)については、平成 25 年第 42 週から報告対象となったため、前週からの推移のみ表示しています。

## インフルエンザ情報 2014 年 第 12 週 (3 月 17 日 ~ 3 月 23 日)

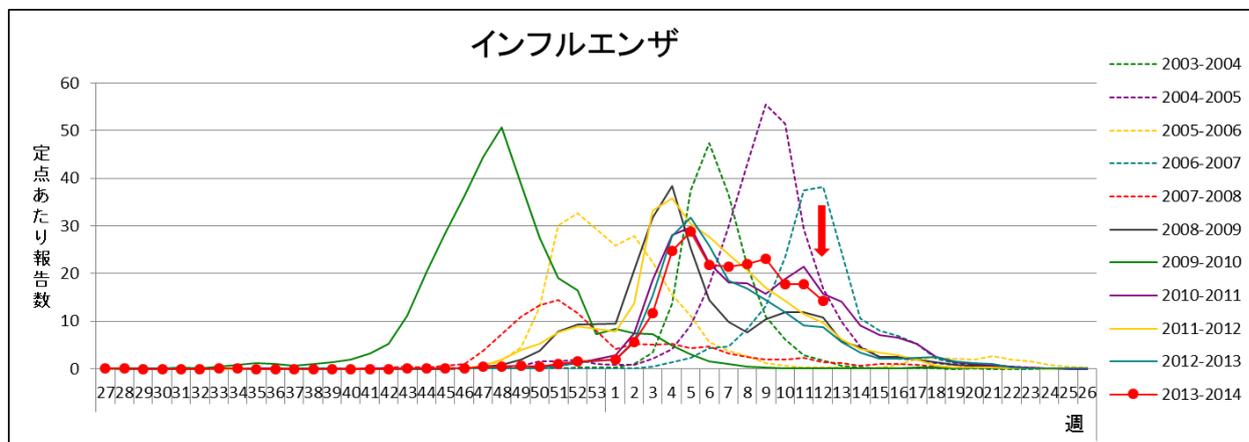
◎岡山県は『インフルエンザ注意報』発令中です。

## ➤ 岡山県の流行状況

- インフルエンザは、県全体で 1197 名 (定点あたり 17.73 → 14.25 人) の発生があり、前週より減少しました。
- インフルエンザによる入院患者 2 名の報告がありました。
- インフルエンザとみられる学校等の臨時休業が 29 施設でありました。

## 【第 13 週 速報】

- 岡山市の小学校 1 校でインフルエンザとみられる学級閉鎖がありました (3 月 24 日)。



※ インフルエンザは、通常、秋から翌年の春にかけて流行するため、第 27 週 ~ 翌年第 26 週で、グラフを作成しています。

インフルエンザは、県全体で 1197 名 (定点あたり 17.73 → 14.25 人) の発生があり、前週より減少しました (84 定点医療機関報告)。県全体の報告数はピークとなった第 5 週と比べると減少したものの、依然として多くの患者が報告されており、岡山県では「インフルエンザ注意報」を発令中です (1 月 16 日発令)。

地域別では、倉敷市 (22.88 人)、備中地域 (19.67 人)、真庭地域 (15.67 人) の順で定点あたり報告数が多くなっています。真庭地域を除く全ての地域で報告数が減少しましたが、真庭地域では第 10 週以降 3 週連続で増加しています。

学校等の臨時休業は 29 施設から報告がありました。現在、春休み中のため、学校等の集団の中での感染の機会は減ると思われそうですが、人の移動も多くなることから、ひきつづき『外出後や食事前の手洗い・うがいを徹底する。』『人混みを避け、人混みに入るときはマスクを着用する。』『十分な睡眠をとる。』など、感染予防に努めて下さい。また症状のある方は早めに医療機関を受診するとともに、マスクを着用するなど咳エチケットを心がけましょう。

## ◆インフルエンザが流行しています。感染予防と拡大防止に努めて下さい。

◎外から帰ったときや、食事前には手洗い・うがいを心がけましょう。

アルコールを含んだ消毒液で手を消毒するのも効果的です。

◎インフルエンザは、インフルエンザにかかった人の咳、くしゃみ、つばなどの飛沫と共に放出されたウイルスを、鼻腔や気管など気道に吸入することによって感染します。

周囲の方々のためにも普段から「咳エチケット」を心がけましょう。

◎可能な限り人混みを避け、マスクを着用しましょう。体の抵抗力を高めるために、十分な休養とバランスのとれた食事を心がけましょう。

[インフルエンザ Q&A \(厚生労働省\)](#)

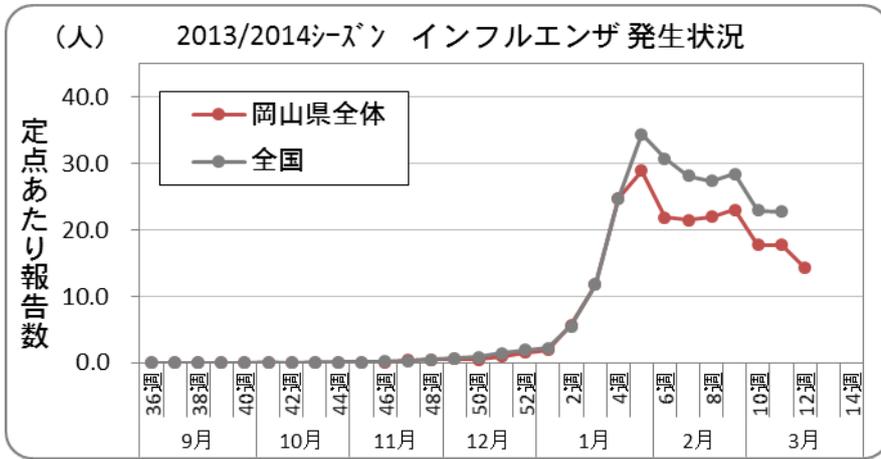
ワクチンは、感染を完全に防ぐことはできませんが、発熱期間の短縮や、重症化を防ぐことには効果があると言われています。

# 1. 地域別発生状況

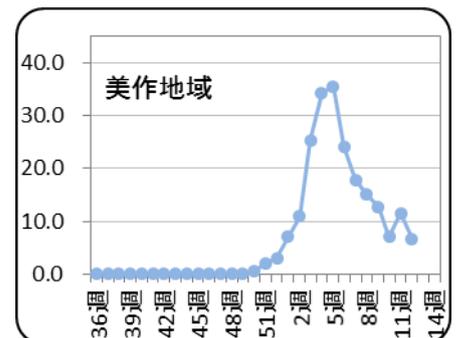
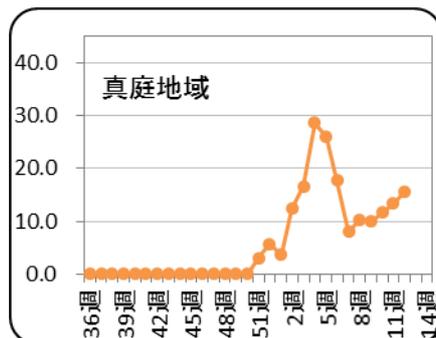
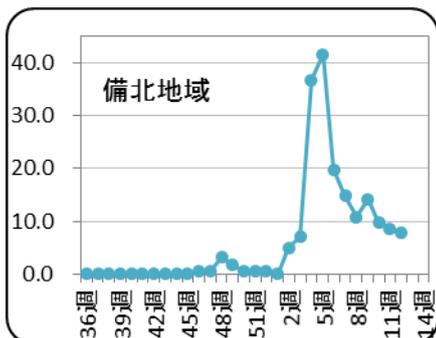
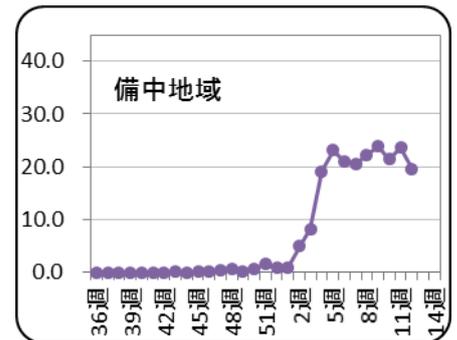
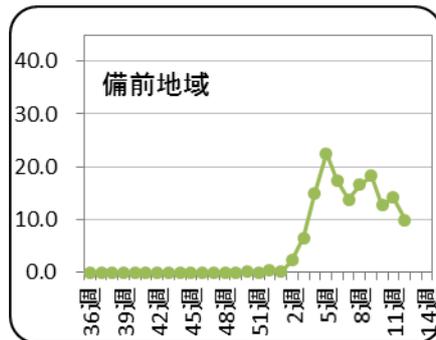
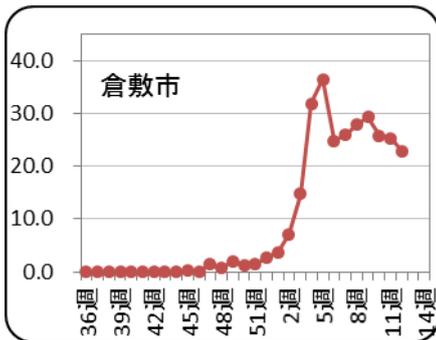
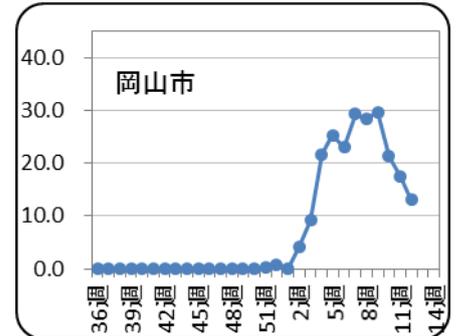
前週からの推移（単位：人）

地域名	発生状況		推移	地域名	発生状況		推移
岡山県全体	患者数	1197	↓	備 中	患者数	236	↓
	定点あたり	14.25			定点あたり	19.67	
岡山市	患者数	286	↓	備 北	患者数	47	↓
	定点あたり	13.00			定点あたり	7.83	
倉敷市	患者数	366	↓	真 庭	患者数	47	↓
	定点あたり	22.88			定点あたり	15.67	
備 前	患者数	148	↓	美 作	患者数	67	↓
	定点あたり	9.87			定点あたり	6.70	

【記号の説明】 前週からの推移： 2倍以上の減少 ↓ 1.1～2倍未満の減少 ↘ 1.1未満の増減 →  
 1.1～2倍未満の増加 ↗ 2倍以上の増加 ↑

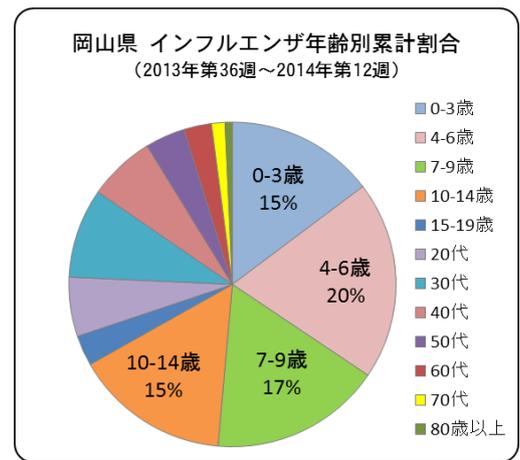
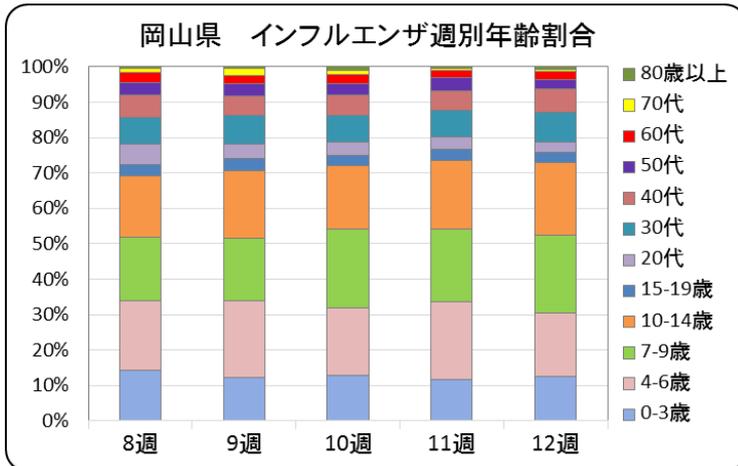


全国集計第11週(3/10～3/16)速報値によると、全国では定点あたり22.79人であり、前週とほぼ同程度でした。地域別では、福井県(46.16人)、岩手県(41.28人)、宮城県(39.83人)の順で定点あたり報告数が多くなっており、19都道府県で前週より減少しました。



## 2. 年齢別発生状況

今シーズン(2013年9月2日～)の年齢別累計割合は、4-6歳 20%、7-9歳 17%、0-3歳及び10-14歳 15%の順で多くなっています。



## 3. インフルエンザウイルス検出状況

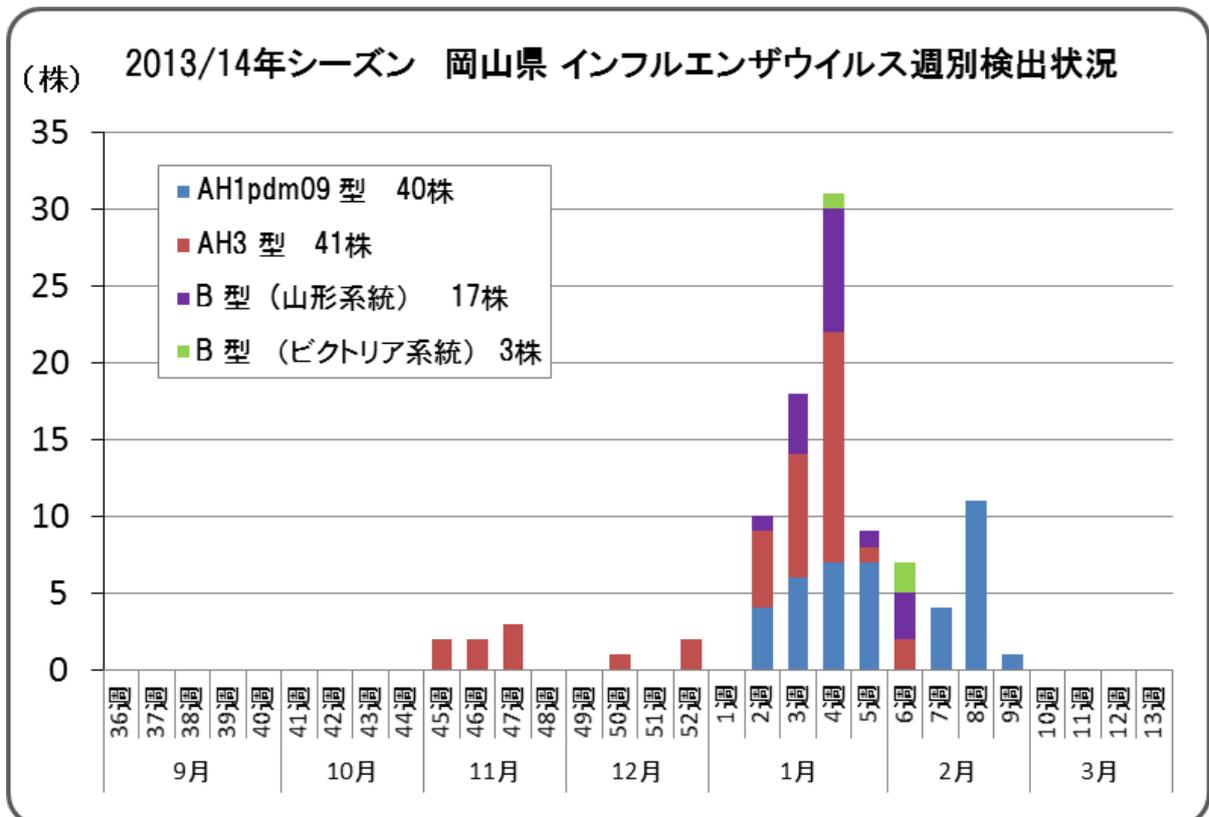
第12週、環境保健センターで判明したインフルエンザウイルスは、ありませんでした。今シーズンでこれまでに環境保健センターで検出されたインフルエンザウイルスは、AH3型が41株(40%)、AH1pdm09型が40株(40%)、B型が20株(20%)となっています。

### ・ [\(岡山県 インフルエンザウイルス分離・検出状況\)](#)

全国で検出されたインフルエンザウイルスは、AH1pdm09型 47%、B型 28%、AH3型 24%の順に多く検出されています。1月以降はAH1pdm09型の検出割合が増加しています。

AH1pdm09型のインフルエンザウイルスは、4年前の2009/2010年シーズンに新型インフルエンザとして大流行し、その年に検出されたウイルスの98%がAH1pdm09型となりました。その後、2011年4月以降は通常の季節性インフルエンザの扱いとなり、つづく2シーズンは低い検出率(0.2~2.4%)でしたが、今シーズンは3年ぶりに検出率が高くなっています。(平成26年3月27日現在)

### ・ [\(インフルエンザウイルス分離・検出速報\(国立感染症研究所\)\)](#)

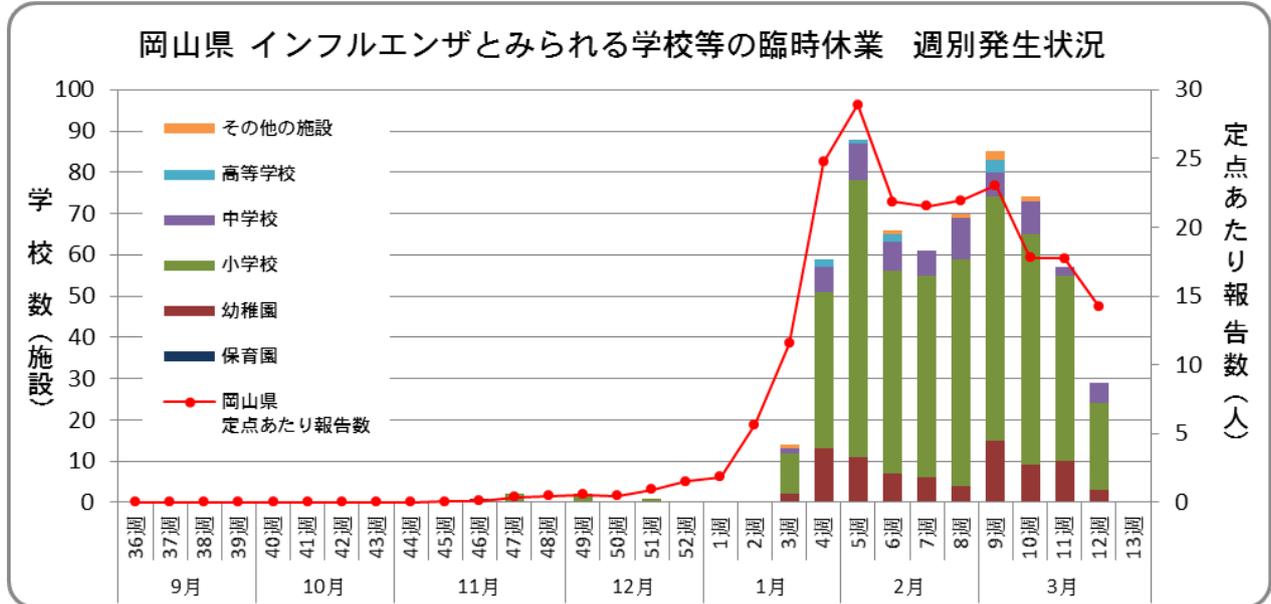


#### 4. インフルエンザ様疾患による学校等の臨時休業施設数

インフルエンザとみられる学校等の臨時休業が 29 施設でありました。

##### 【第 12 週 臨時休業施設数】

▽岡山市 6   ▽倉敷市 8   ▽備前市 1   ▽赤磐市 1   ▽総社市 1   ▽井原市 3   ▽笠岡市 2  
▽浅口市 1   ▽里庄町 1   ▽真庭市 3   ▽西粟倉村 1   ▽美作市 1



##### 1) 有症者数・欠席者数および臨時休業措置の内訳

地域名*	有症者数		うち欠席者数		施設数合計		休園・休校数		学年閉鎖施設数		学級閉鎖施設数		初発年月日
	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	
<b>岡山県全体</b>	<b>471</b>	<b>8855</b>	<b>386</b>	<b>6759</b>	<b>29</b>	<b>609</b>	<b>0</b>	<b>14</b>	<b>9</b>	<b>169</b>	<b>20</b>	<b>426</b>	<b>H25. 11. 13</b>
岡山市	97	3723	87	2700	6	222	0	3	1	35	5	184	H26. 1. 14
倉敷市	149	1559	112	1243	8	112	0	1	1	22	7	89	H25. 11. 18
備前地域	14	758	12	615	2	68	0	1	1	34	1	33	H26. 1. 16
備中地域	136	1216	117	950	8	90	0	0	3	24	5	66	H25. 11. 13
備北地域	0	115	0	98	0	12	0	2	0	5	0	5	H26. 1. 23
真庭地域	43	118	35	97	3	12	0	0	1	9	2	3	H26. 1. 27
美作地域	32	1366	23	1056	2	93	0	7	2	40	0	46	H25. 12. 20

\* 地域名は、保健所管轄地域を表しています。

##### 2) 臨時休業施設数の内訳

第 12 週 : 29 施設

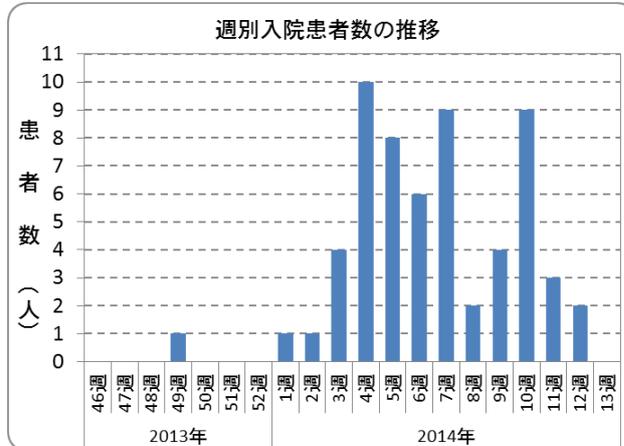
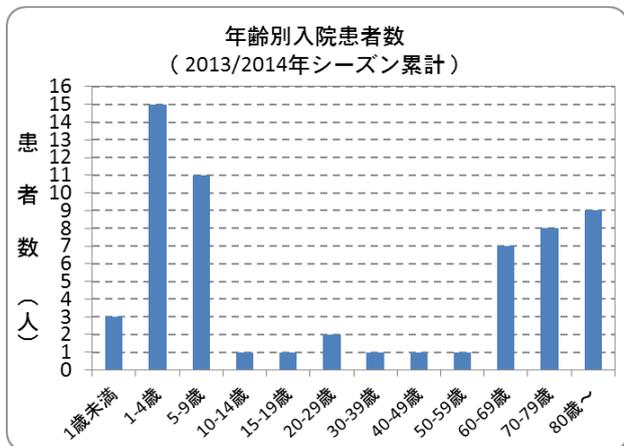
累計 : 609 施設

施設数	保育所		幼稚園		小学校		中学校		高等学校		その他	
	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計
施設数	—	—	3	81	21	454	5	60	0	8	0	6

5. インフルエンザによる入院患者報告数（県内基幹定点 5 医療機関による報告）

インフルエンザによる入院患者は、2 名（1-4 歳 1 名、5-9 歳 1 名）の報告がありました。

幼児や高齢者、慢性疾患・代謝疾患をもつ人、免疫機能が低下している人などでは重症化することがありますので注意が必要です。幼児ではまれに脳炎を起こすことがあります。水分をとった後すぐ吐いてしまう、元気がない、意識がはっきりせずとうとうとしている、けいれんを起こす、このような症状がみられるときは、すぐに医療機関に相談しましょう。



【第 12 週 入院患者報告数】

年齢	1歳未満	1~4歳	5~9歳	10~14歳	15~19歳	20~29歳	30~39歳	40~49歳	50~59歳	60~69歳	70~79歳	80歳以上	計*
入院患者数		1	1										2
ICU 入室													
人工呼吸器の利用													
頭部 CT 検査(予定含)													
頭部 MRI 検査(予定含)													
脳波検査(予定含)													
いずれにも該当せず		1	1										2

\* 重複あり

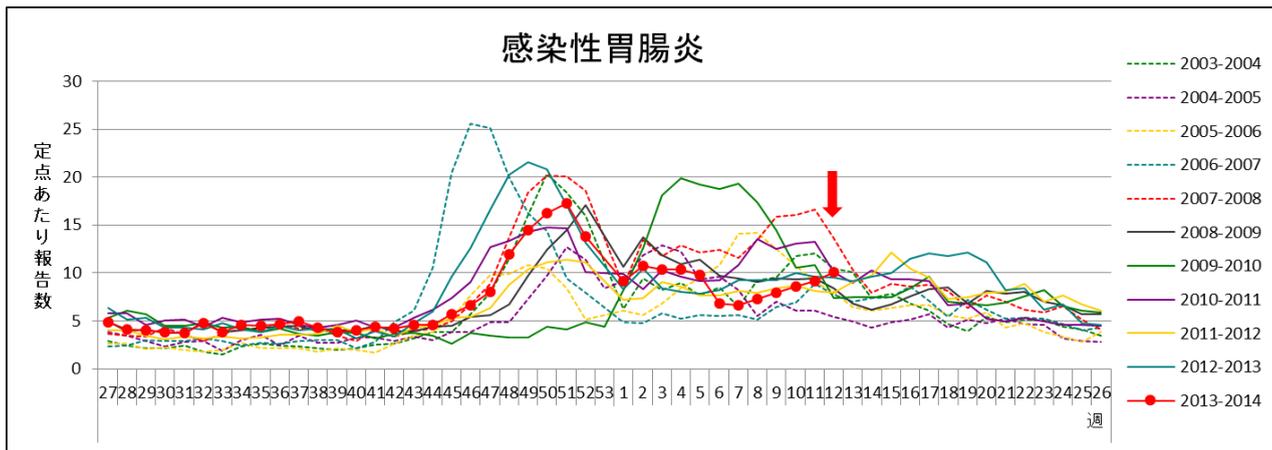
【平成 25 年 9 月 2 日以降に入院した患者の累計数】

年齢	1歳未満	1~4歳	5~9歳	10~14歳	15~19歳	20~29歳	30~39歳	40~49歳	50~59歳	60~69歳	70~79歳	80歳以上	計*
入院患者数	3	15	11	1	1	2	1	1	1	7	8	9	60
ICU 入室		1							1				2
人工呼吸器の利用		1									2		3
頭部 CT 検査(予定含)		3	1						1		1		6
頭部 MRI 検査(予定含)	1	2	2						1		1	1	8
脳波検査(予定含)	1	2	2										5
いずれにも該当せず	2	11	8	1	1	2	1	1		7	5	8	47

\* 重複あり

## 感染性胃腸炎情報 2014 年 第 12 週 (3 月 17 日 ~ 3 月 23 日)

○感染性胃腸炎は、県全体で 542 名（定点あたり 9.15 → 10.04 人）の発生がありました（54 定点医療機関報告）。



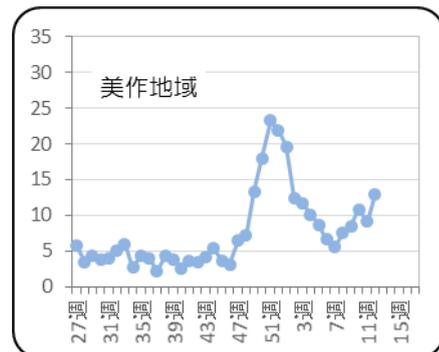
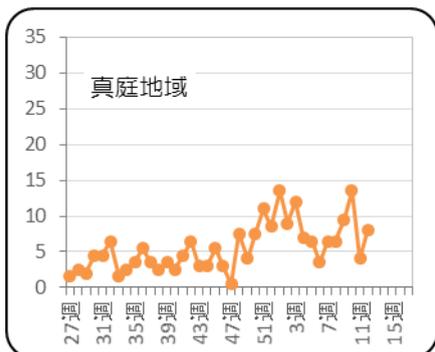
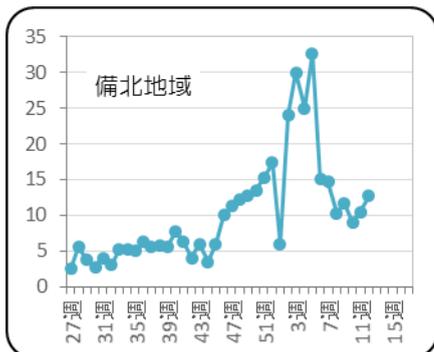
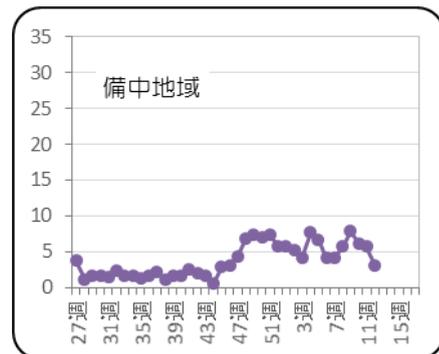
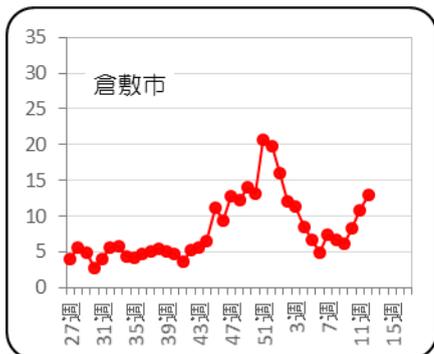
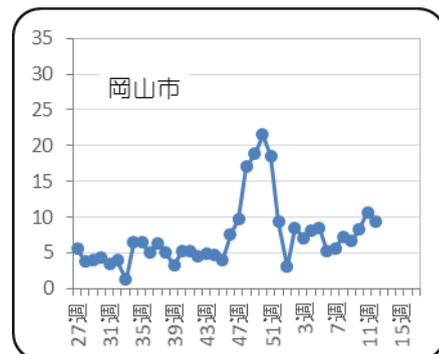
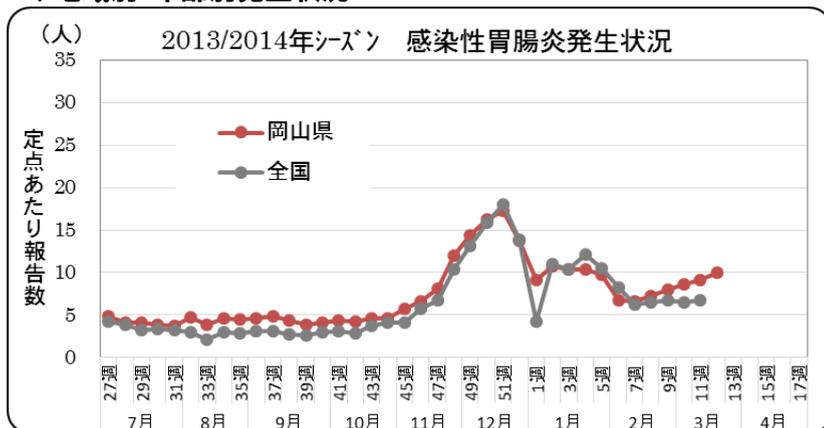
※感染性胃腸炎は秋から翌年の春にかけて流行するため、27 週～翌年 26 週でグラフを作成しています。

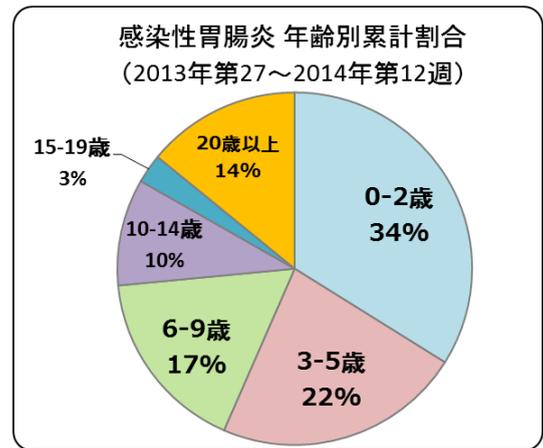
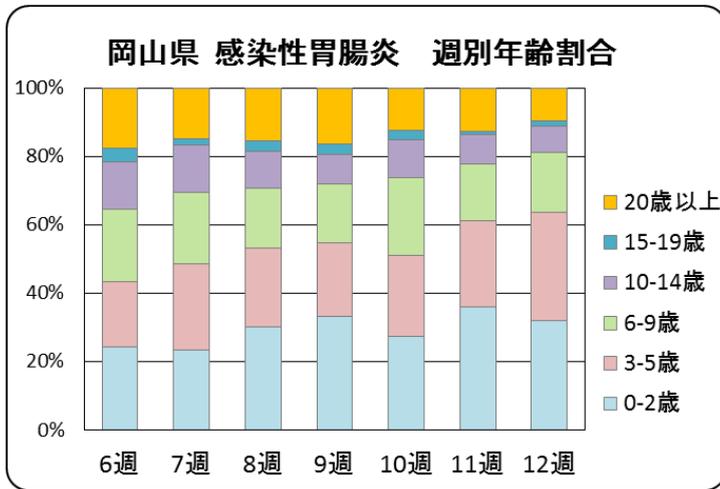
**感染性胃腸炎**は、県全体で 542 名（定点あたり 9.15 → 10.04 人）の発生がありました。第 8 週以降はわずかに増加が続き、今週は定点あたり 10 人を超えました。冬の感染性胃腸炎の原因はノロウイルスやロタウイルス等のウイルスによるものが多く、幅広い年齢層での発生がみられます。学校や福祉施設、病院などでは、手洗いの徹底や下痢便・嘔吐物の適切な処理など、感染予防と拡大防止に努めてください。

[○ノロウイルスに関する Q&A \(厚生労働省\)](#)

[○ロタウイルスに関する Q&A \(厚生労働省\)](#)

### ◆地域別・年齢別発生状況





地域別では、美作地域（13.00人）、倉敷市（12.91人）、備北地域（12.75人）の順で定点あたり報告数が多くなっており、岡山市と備中地域以外の地域で増加しました。倉敷市では3週連続の増加となっています。週別年齢割合を見ると、第12週は3-5歳の年齢層が大きく増加しました。第6週以降、5歳以下の年齢層の割合が増加傾向となっています。

例年3～5月には、0-2歳の乳幼児を中心にロタウイルスによる胃腸炎が増加するとされています。主な症状は嘔吐と下痢で、ノロウイルスによる胃腸炎に比べ重症度が高いといわれています。嘔吐や下痢により脱水症状を起こすこともありますので、体調の変化に注意し、早めに医療機関を受診してください。

## ◎感染性胃腸炎が多く発生しています。

石けんと流水でしっかりと手を洗うなど、感染予防と拡大防止に努めましょう。患者の嘔吐物や下痢便を処理する際には、自分が感染しないように、使い捨ての上着やマスク、手袋を着用しましょう。また、塩素系漂白剤などを使った消毒も併せて行いましょう。

通常重症化することはありませんが、小さなお子さんや高齢者の方は、嘔吐や下痢による脱水症状を起こすこともありますので、体調の変化に注意し、早めに医療機関を受診してください。

保健所別報告患者数 2014年 12週 (2014/03/17～2014/03/23)

2014年3月27日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
インフルエンザ	1197	14.25	286	13.00	366	22.88	148	9.87	236	19.67	47	7.83	47	15.67	67	6.70
RSウイルス感染症	3	0.06	1	0.07	2	0.18	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
咽頭結膜熱	25	0.46	14	1.00	6	0.55	-	-	1	0.14	4	1.00	-	-	-	-
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	44	0.81	19	1.36	19	1.73	-	-	1	0.14	-	-	-	-	5	0.83
感染性胃腸炎	542	10.04	132	9.43	142	12.91	102	10.20	21	3.00	51	12.75	16	8.00	78	13.00
水痘	41	0.76	11	0.79	9	0.82	-	-	1	0.14	1	0.25	10	5.00	9	1.50
手足口病	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
伝染性紅斑	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
突発性発疹	23	0.43	12	0.86	5	0.45	3	0.30	-	-	1	0.25	-	-	2	0.33
百日咳	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ	1	0.02	-	-	1	0.09	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性耳下腺炎	6	0.11	1	0.07	2	0.18	3	0.30	-	-	-	-	-	-	-	-
急性出血性結膜炎	1	0.08	1	0.20	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	6	0.50	-	-	4	1.00	2	2.00	-	-	-	-	-	-	-	-
細菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎	1	0.20	1	1.00	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	2	0.40	2	2.00	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

(- : 0 or 0.00) (空白 : 定点なし)

保健所別報告患者数 2014年 12週 (2014/03/17～2014/03/23)

2014年3月27日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
インフルエンザ	1197	14.25	286	13.00	366	22.88	148	9.87	236	19.67	47	7.83	47	15.67	67	6.70
咽頭結膜熱	25	0.46	14	1.00	6	0.55	-	-	1	0.14	4	1.00	-	-	-	-
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	44	0.81	19	1.36	19	1.73	-	-	1	0.14	-	-	-	-	5	0.83
感染性胃腸炎	542	10.04	132	9.43	142	12.91	102	10.20	21	3.00	51	12.75	16	8.00	78	13.00
水痘	41	0.76	11	0.79	9	0.82	-	-	1	0.14	1	0.25	10	5.00	9	1.50
手足口病	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
伝染性紅斑	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
百日咳	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ	1	0.02	-	-	1	0.09	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性耳下腺炎	6	0.11	1	0.07	2	0.18	3	0.30	-	-	-	-	-	-	-	-
急性出血性結膜炎	1	0.08	1	0.20	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	6	0.50	-	-	4	1.00	2	2.00	-	-	-	-	-	-	-	-

濃黄セルに赤字は岡山県地区別感染症マップにおいて、レベル3  
薄黄セルに黒数字は岡山県地区別感染症マップにおいて、レベル2  
を示しています。

感染症発生動向調査 週情報 報告患者数 年齢別 ( 2014年 第12週 2014/03/17~2014/03/23 )

疾病名	合計	-6ヶ月	-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80~
インフルエンザ	1197	4	11	45	39	52	60	83	69	94	104	65	249	32	37	100	79	32	26	9	7

疾病名	合計	-6ヶ月	-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20~
RSウイルス感染症	3	-	1	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
咽頭結膜熱	25	-	1	5	5	3	6	3	-	1	-	1	-	-	-
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	44	-	-	1	4	9	4	5	6	6	3	-	3	2	1
感染性胃腸炎	542	4	27	76	66	64	60	47	25	20	32	19	42	8	52
水痘	41	-	1	7	1	13	9	8	1	1	-	-	-	-	-
手足口病	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
伝染性紅斑	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
突発性発疹	23	-	13	10	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
百日咳	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ	1	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性耳下腺炎	6	-	-	-	-	-	2	-	1	1	-	2	-	-	-

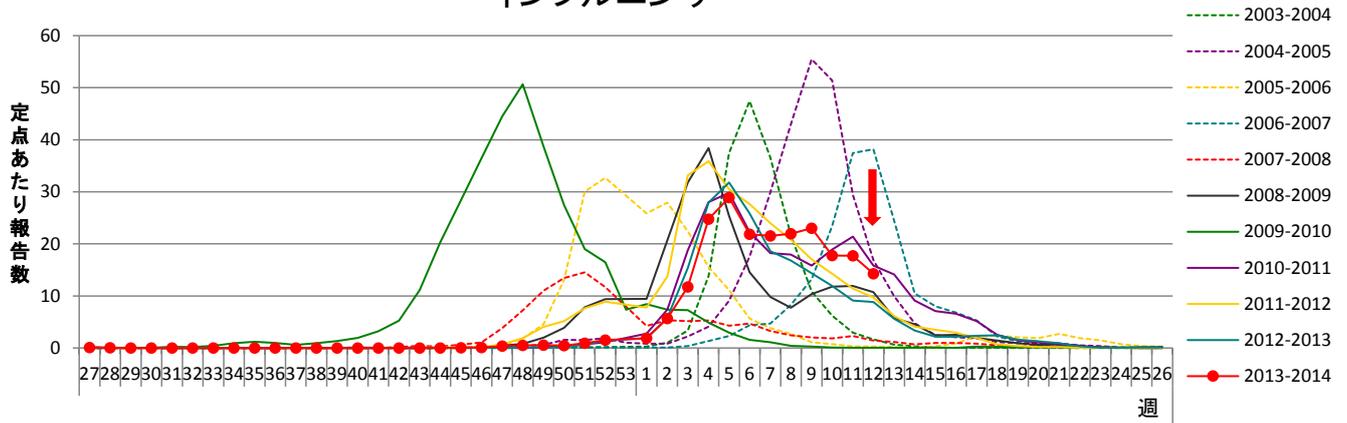
疾病名	合計	-6ヶ月	-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70~
急性出血性結膜炎	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
流行性角結膜炎	6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	2	-	-	1	1

疾病名	合計	0歳	1-4	5-9	10-14	15-19	20-24	25-29	30-34	35-39	40-44	45-49	50-54	55-59	60-64	65-69	70~
細菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	2	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

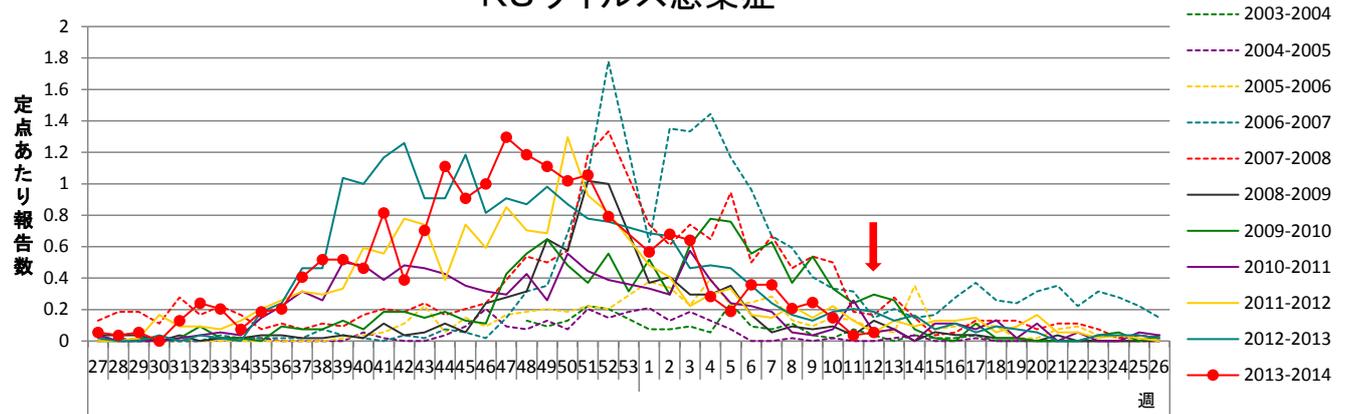
( - : 0 )



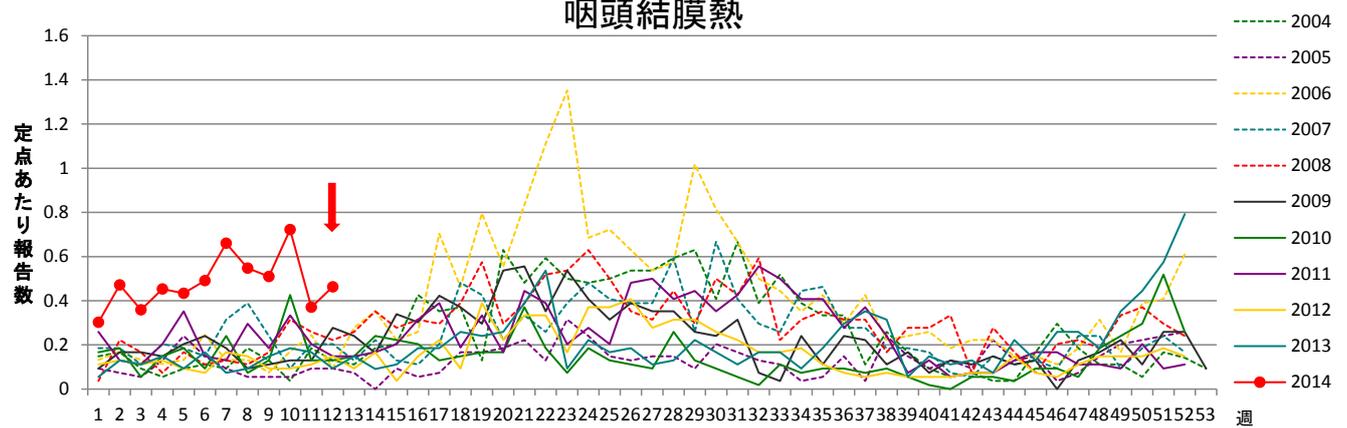
### インフルエンザ



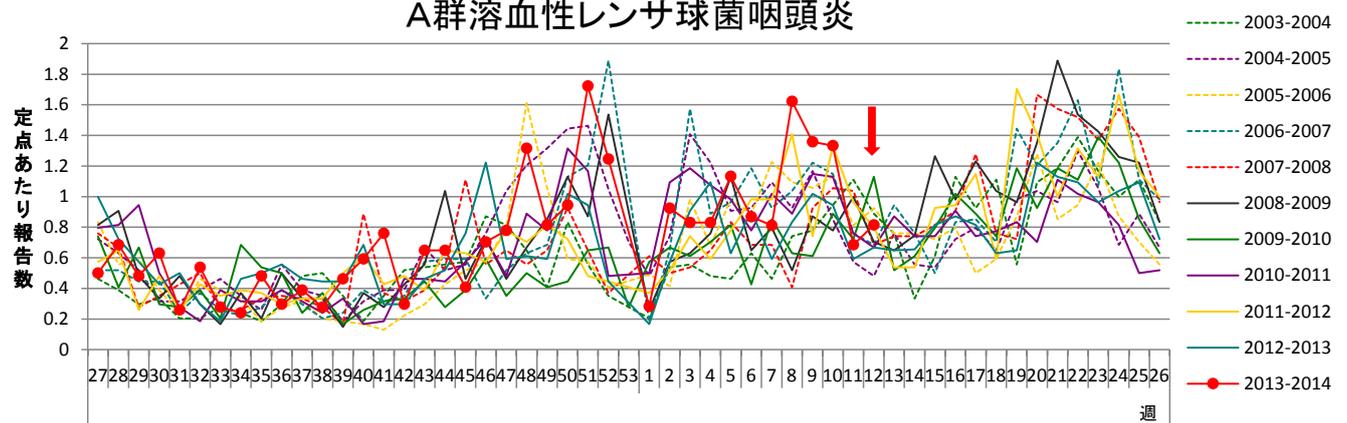
### RSウイルス感染症

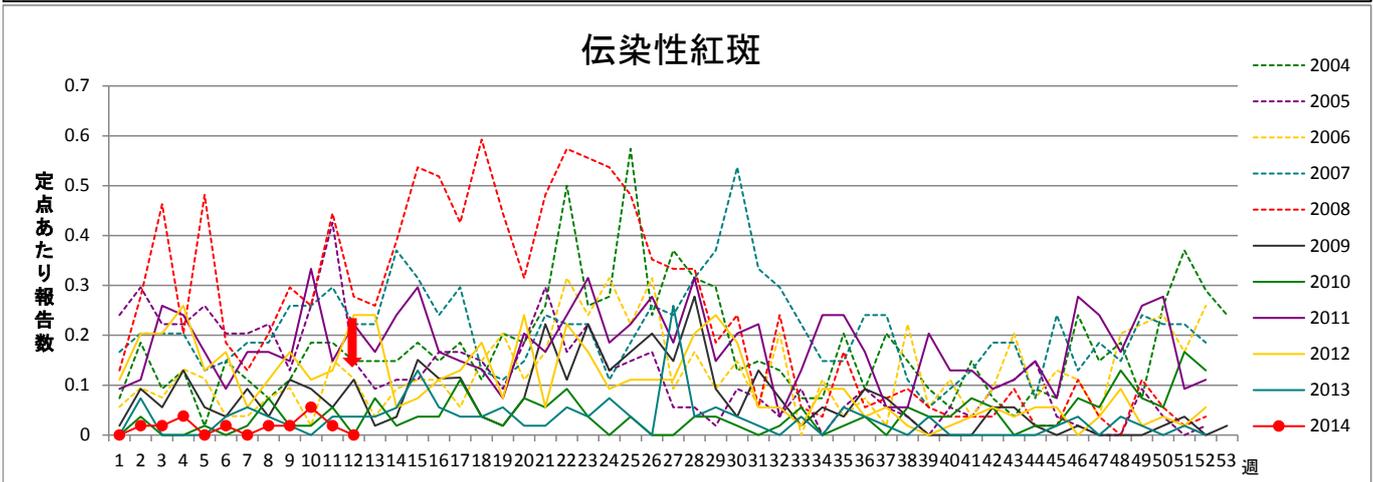
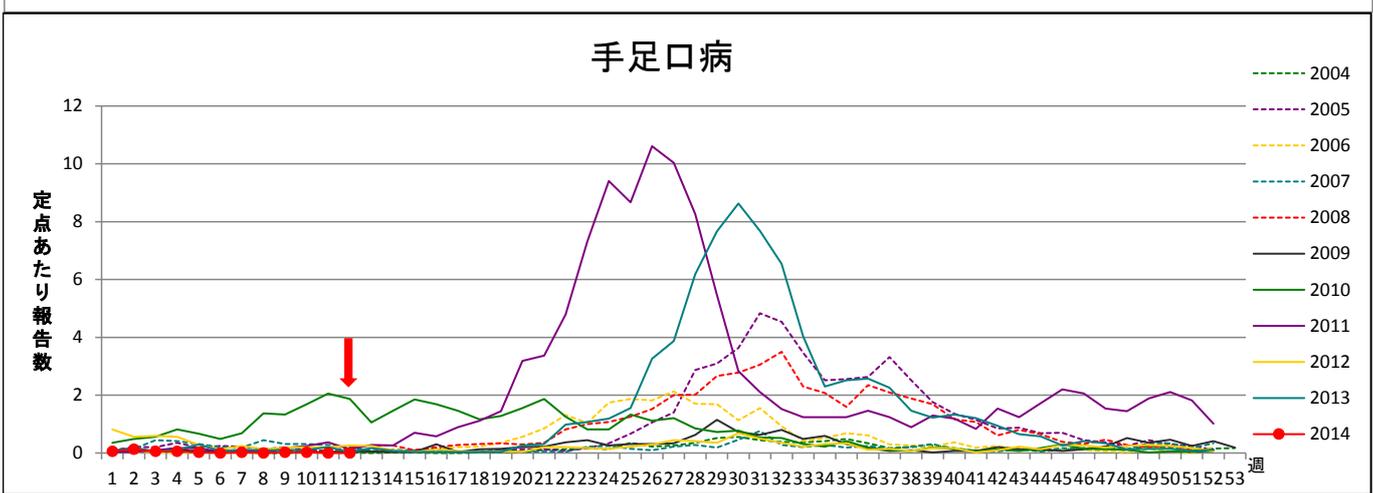
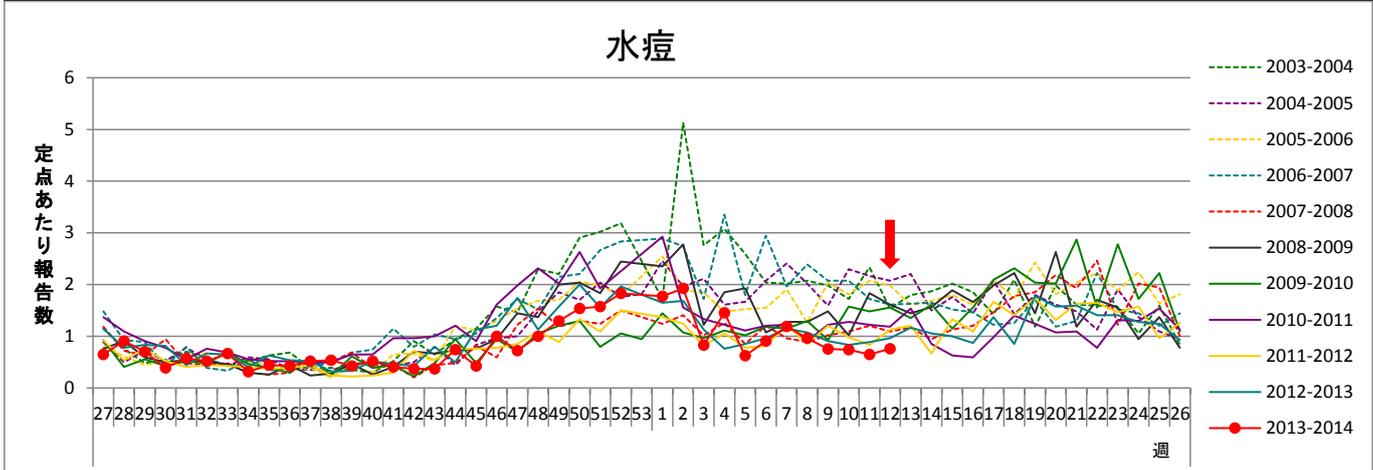
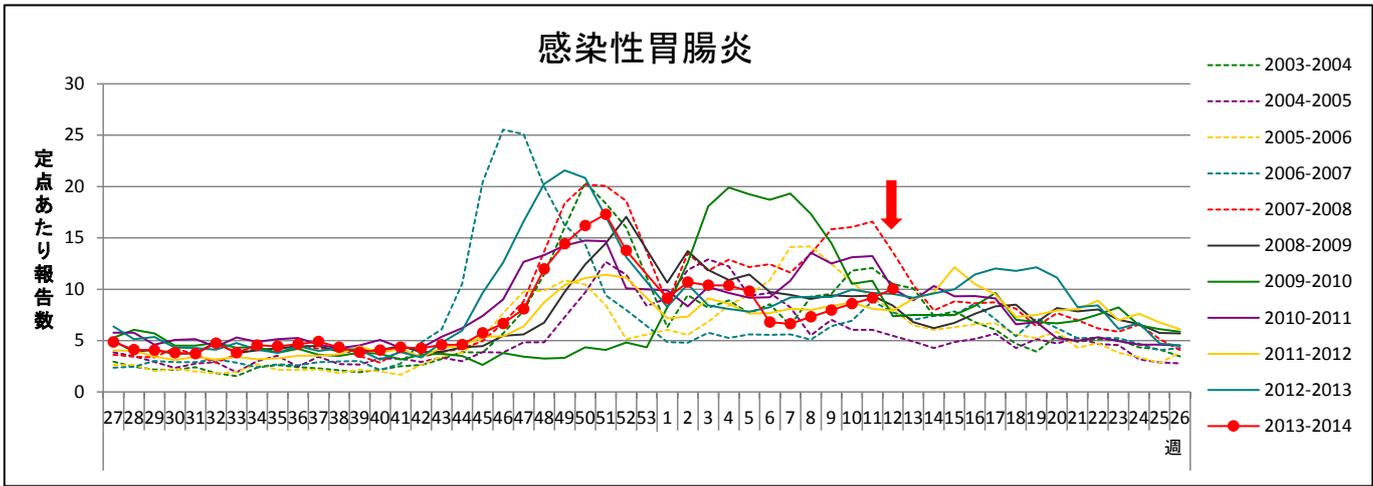


### 咽頭結膜熱

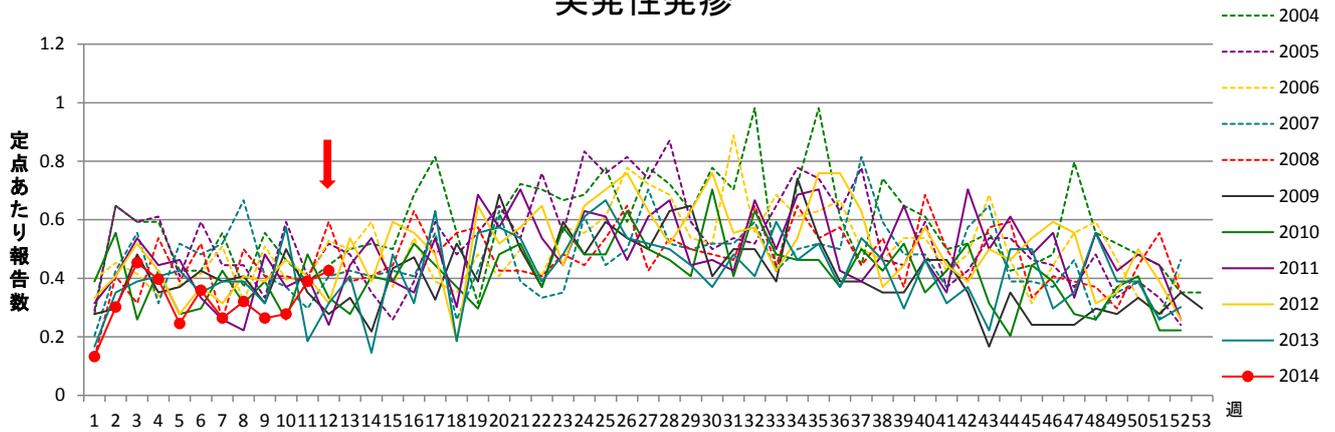


### A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

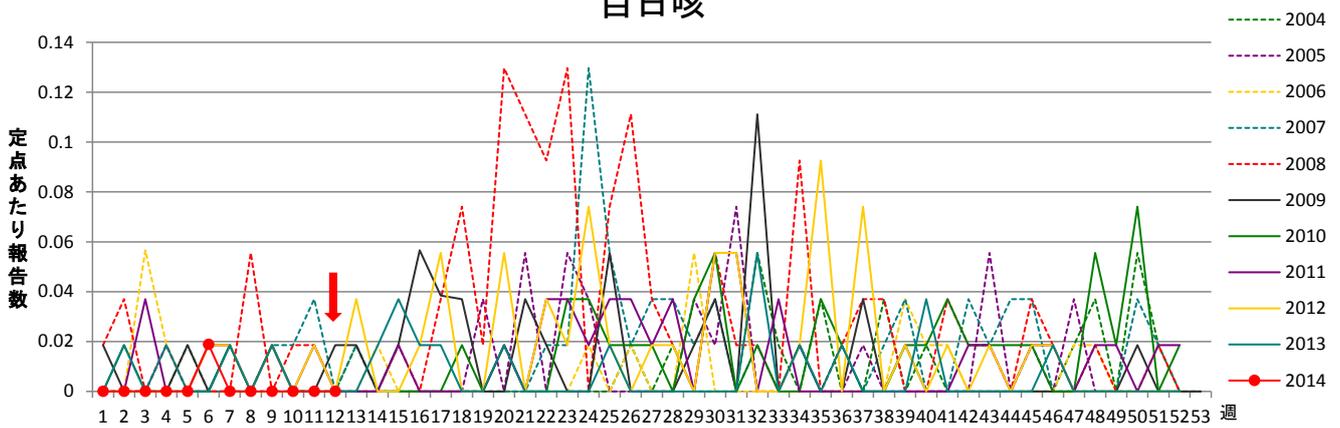




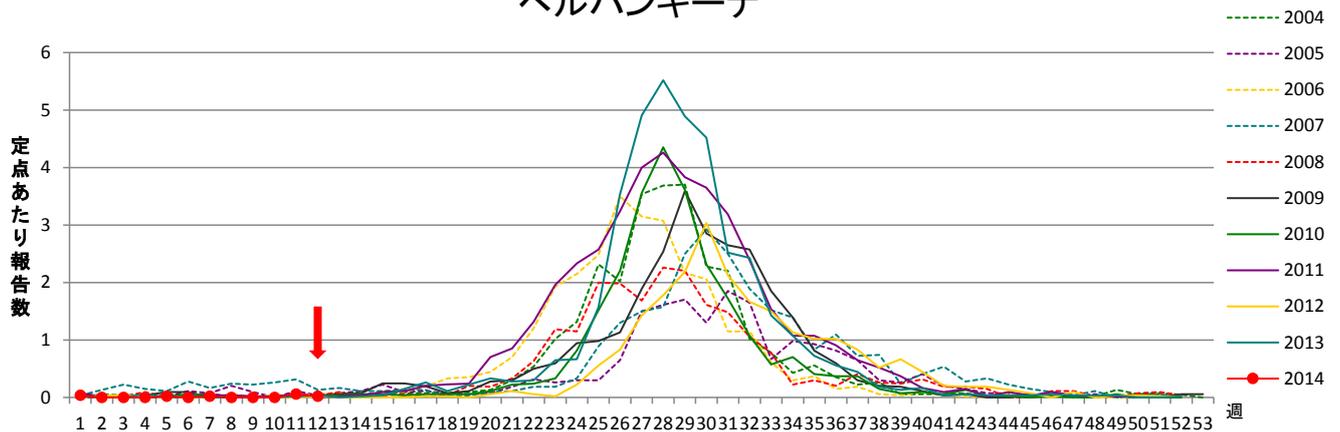
### 突発性発疹



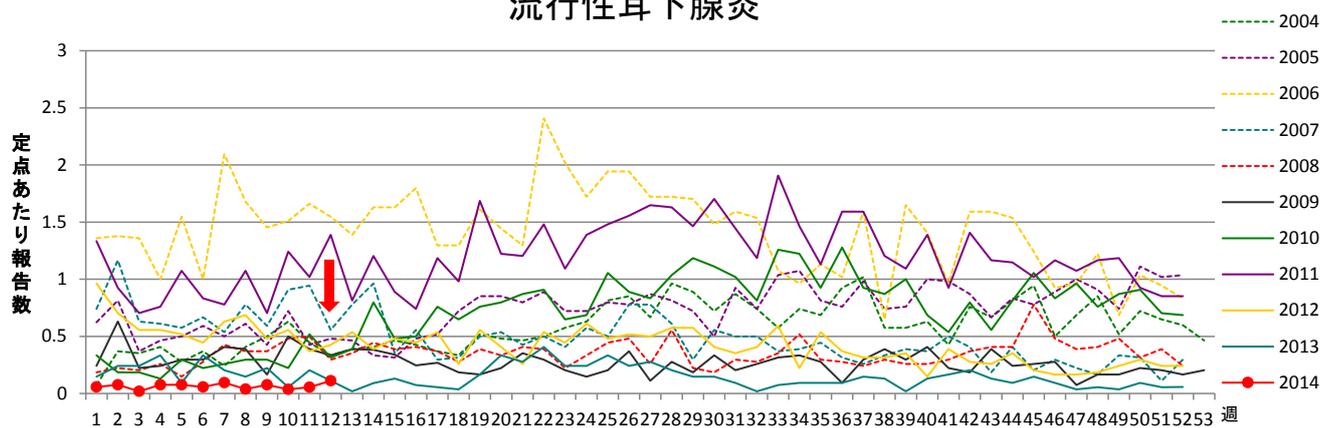
### 百日咳



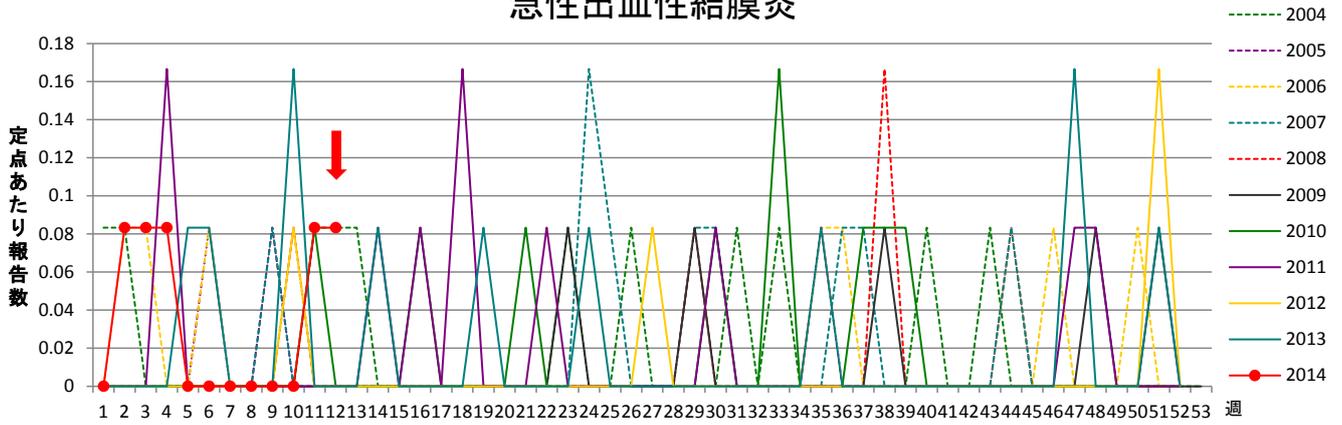
### ヘルパンギーナ



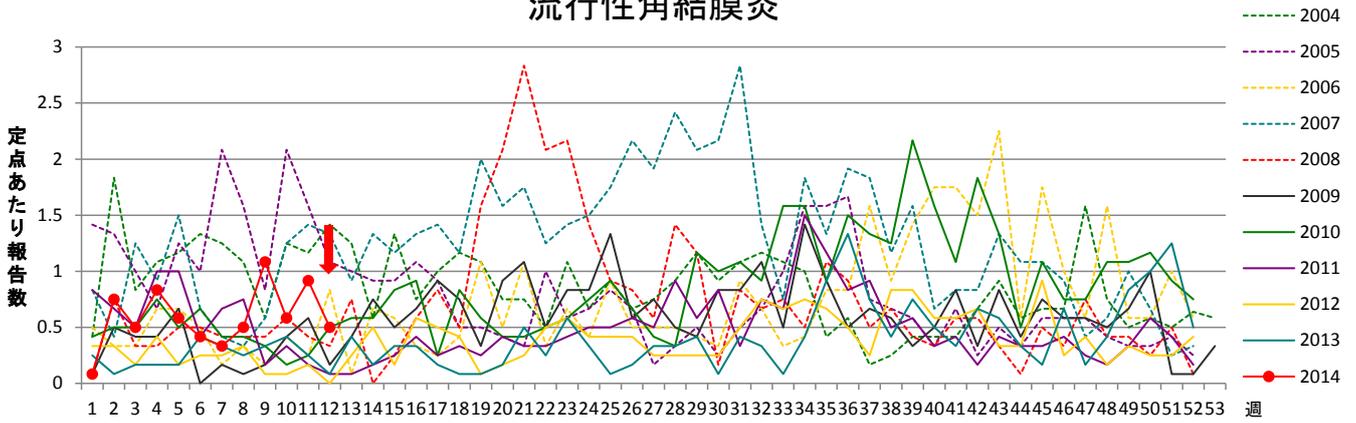
### 流行性耳下腺炎



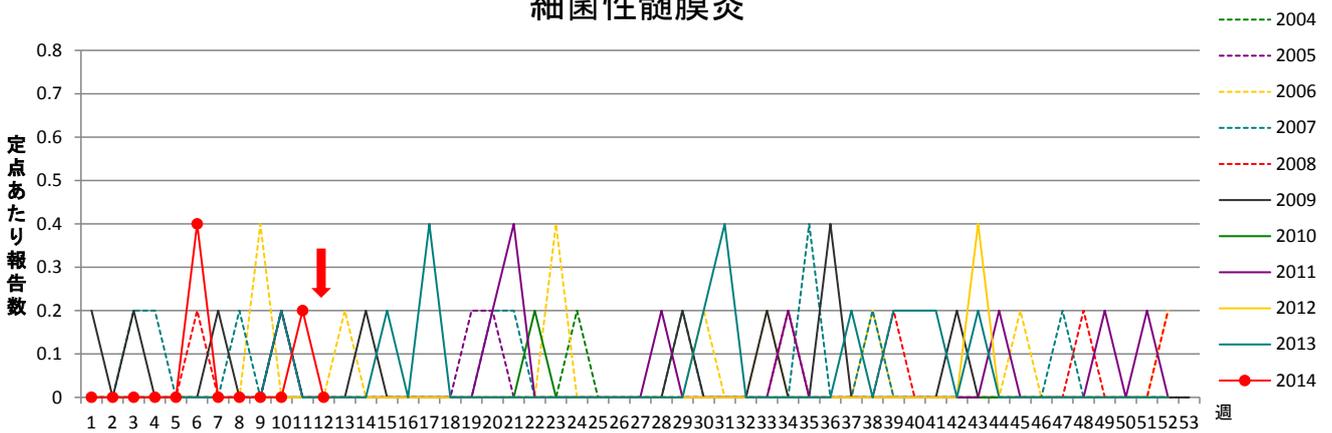
### 急性出血性結膜炎



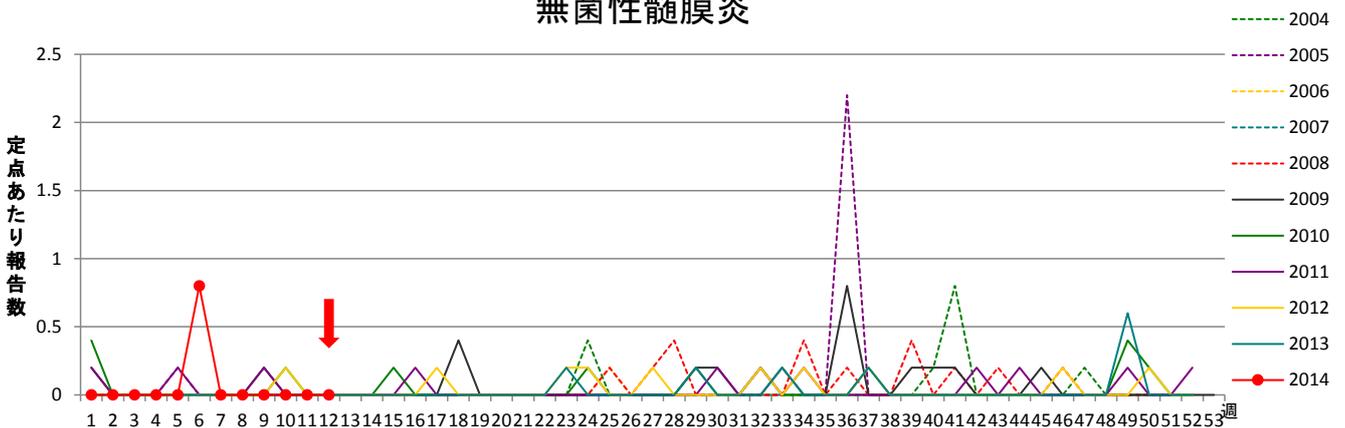
### 流行性角結膜炎



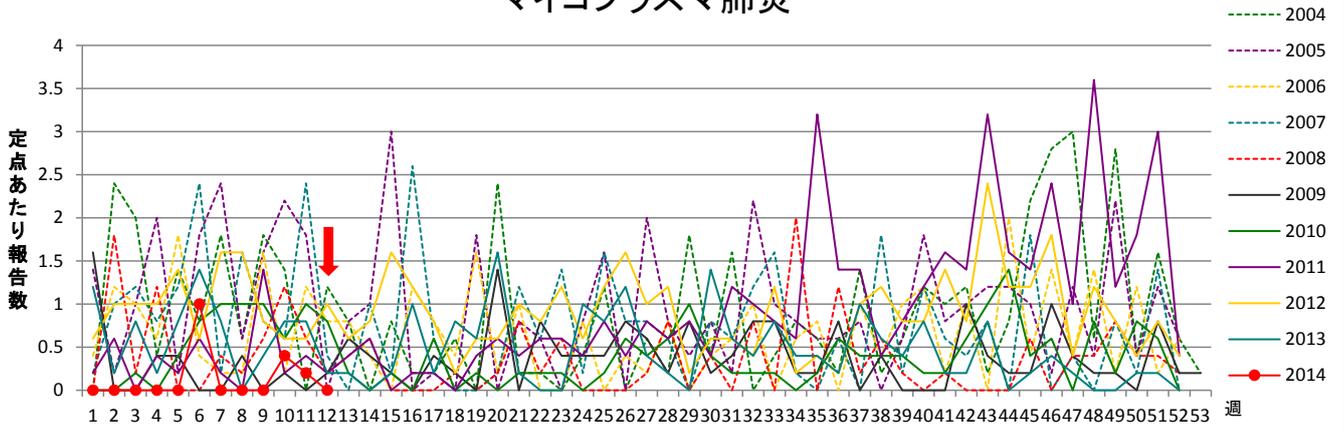
### 細菌性髄膜炎



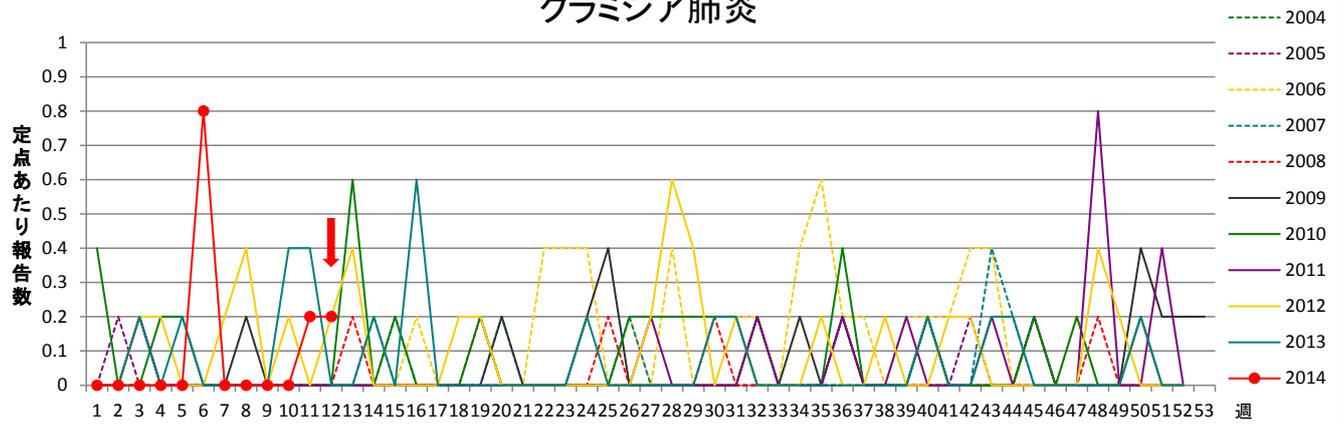
### 無菌性髄膜炎



### マイコプラズマ肺炎



### クラミジア肺炎



### 感染性胃腸炎(ロタウイルス)

● 2013-2014

